

第1分科会①-6

百人いれば百通りの生き方・逝き方がある

嘱託医との連携

2.5人稱の視点

人生会議 (ACP)

“あの匂い・あの味・あの笑顔” ～一生忘れない～

とくべつようごろうじんほ一む とみたけのさと

長野県・長野市

特別養護老人ホーム富竹の里

しゅにんせいかつそうだんいん うちだ あゆみ

施設長 嶋田 直人

主任生活相談員 内田 亜由美

Mail : koujinkai@tomitake-carenet.com

FAX : 026 - 296 - 7384

今回の発表の施設
またはサービスの
概要



社会福祉法人光仁会富竹の里 (KOUJINKAI TOMITAKENOSATO)
地域を支える社会福祉事業を実践しています
Social welfare service to support communities



<取り組んだ課題>

1 1/100

- ご家族の苦悩と葛藤
- 職員が感じる看取り介護の不安

2 身近になる死のプレゼンス

- 人生会議 (ACP: アドバンス・ケア・プランニング)

<具体的な取り組み>

1 知る・学ぶ・考える機会の確保

- (1) 三者 (嘱託医・ご家族・職員) 合同看取り介護研修会開催
 - ① 嘱託医: 生老病死、老衰死について
 - 看取り介護 (終末期) の定義
 - 飲食が出来なくなってきた時の選択肢
 - 嘱託医と連携した施設での医療行為
 - 施設で看取られた方の死因
老衰60%、誤嚥性肺炎30%、癌等10%
老衰 ≡ 誤嚥性肺炎 ≡ 癌等
 - ② 施設側: 実践報告
 - 延命希望有無の家族の声
 - ケアプラン内容の説明
- (2) 二者 (ご家族・職員) 合同食事ケア研修会開催
 - 誤嚥性肺炎の説明
 - 食事形態の説明・試食
- (3) 看取り介護場面にある「3つの視点」の意識
- (4) 人生最終段階における意思確認

2 積極的な情報発信で看取り介護の理解促進

- (1) パンフレット作成
「住み慣れた場所で最期まで」
- (2) 2018～「ANNUAL REPORT」
 - 実施者数、エピソード、感謝の言葉など掲載
 - 毎年、ホームページで情報公開

<活動の成果と評価>

1 知る・学ぶ・考える機会の確保

- 研修参加ご家族間での看取り体験共有
- 誤嚥性肺炎の理解・リスク共有
- 1人稱・2人稱・3人稱の死を考えプラスする
 - ・自分ご利用者という視点 (1人稱)
 - ・自分ご家族という視点 (2人稱)
 - ・冷静で客観的な職員という視点 (3人稱)
- ⇒ ヒューマニティーある専門職 (2.5人稱) へ
- ⇒ 潤いのある科学的・客観的な看取り介護へ
- 人生最終段階における意思確認

【延命治療の希望有無】

経管栄養: 有14%、無54%、不明32%
点滴: 有36%、無32%、不明32%
酸素: 有36%、無32%、不明32%

【最期を迎える場所】

施設60%、病院4%、自宅0%、不明36%
・迷って当たり前、何度変わってもいい
・その都度、寄り添った意思確認が必要

2 積極的な情報発信で看取り介護の理解促進

- 職員とご家族の以心伝心は難しい
- 施設で看取り看取られることの理解が前進
- 専門職としての判断力・技術力の向上
- 入居前から本人と家族による意思決定促進

<今後の課題>

別れの時が必ず来ると知りながら・・・。
明日ありと思う心の仇桜夜半に嵐の吹かぬものかは

<参考資料など>

柳田邦男, 言葉の力生きる力, 新潮文庫, 2005. 7, P189